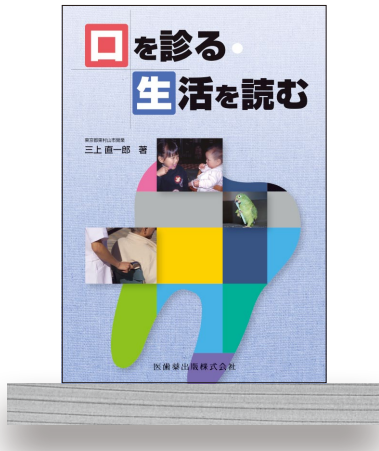


## 口を“診て”，生活を“読む” 臨床のための新しい手引き書



### 口を診る・生活を読む

三上直一郎 著

B5判/112頁 定価：3,800円＋税  
医歯薬出版（2015年4月）

黒田歯科医院

評・品田和美（歯科衛生士）



本書の著者である三上先生は、歯科臨床歴40年のなかで5,000人ものお患者さんとかかわってこられるなかで「予防に根ざした歯科医療」を目指し、治療も指導もまずは患者さんのセルフケアの確立をベースに組み立ててこられました。実際に私も「患者さんとどうかかわっていくのか」について、これまで先生の著書や講演をとおして多くのことを教えていただきました。臨床で“なぜ？”という疑問や悩みが出てくるときに、何度もヒントをいただきました。患者さんやご家族を中心とした視点は「もしかして……」という“気づき”につながる疑似体験となり、たいへん貴重です。

本書では、25の長期症例が紹介されています。医院のスタッフといっしょに振り返りながらまとめられたという経過の記述では、膨大な記録のなかから読者に伝わりやすいポイントを

厳選されたのでしょう。それぞれの症例に対してどのように考え、対応したのかがとてもわかりやすく解説されています。

各章をみると、たとえば歯周病が悪化した例では「人生の曲がり角——大きなストレスの加わったとき」「患者さんは伝えたとおりに理解するとは限らない」、子どもの齲蝕の例では「こじれた母子関係から」「食事習慣の乱れから」といったタイトルがつけられています。これらの例だけでも、ピンとくる方は多いのではないのでしょうか？ きっと、思いあたる患者さんの顔が浮かんでくると思います。

また、テーマごとに「DHの知恵袋」というページが設けられ、臨床でよくある質問や患者さんへの指導に欠かせないポイントも、患者さんとの体験をもとにまとめられています。これらは、ミカミ歯科医院のこれまでが凝縮された知恵袋であると思います。わかりやすいイラストがあることも、実践に活用するにあたってうれしいところです。また、実際の症例と照らし合わせながら自分で考えるときや、医院で話し合うときにも、非常に役立ちます。

さらに本書では、下野正基先生（東京歯科大学名誉教授）が「歯肉退縮の原因」や「喫煙の病理」などについて補足解説されており、患者さんの口腔内で起きていることを病理学的なメカニズムからも理解できる構成になっています。

症例を中心に幾重にも重なる解説は、「口をとおしたかかわりから、患者さんの生活を読むことの大切さ」を教えてください。歯科医療に携わる私たちが、どのようなかかわりを続けたら患者さんとともにハッピーエンドを迎えられるかを考えるにあたり、とてもよい道しるべになる一冊です。